

「米製品等地域自足推進検討事業」

【事業目的】

近年、その自給率維持の為、地域食品加工業は米そのものの出荷の他、米粉や米麺等様々な米製品を販売展開しているが、小麦粉製品(麵・パン)との価格差で消費者から受け入れられず伸び悩んでいる事が現実である。

その大きな要因として、各事業者が単純な一つの商品として米製品を扱っており、当該地域に培われた米食文化や地域の自給率を維持する意義を十分に伝えられていないため、価格競争に陥っている事が考えられる。

当該事業では湯沢市内に限らず、米粉製品を扱う県内企業間等で連携し、研究会を立ち上げ、秋田県内地域の最も重要な特産品としての米及び米製品の価値を、まずは秋田県内消費者に理解させ、購入に繋げていく検討について、秋田大学をはじめとする大学機関やJA等の指導を仰ぎながら実施する。

【事業実施状況、成果】

- 米製品等地域自足推進検討事業 第1回研究会
・平成22年11月4日(木) 於)秋田大学 産学連携推進機構

- 「秋田におけるお米と食育」イベント
～もっと楽しもう！秋田のお米と食育！！～
講演：「食を通じた心と体の育ち～秋田の米食文化を中心に～」
秋田大学教育文化学部 長沼教授
劇：「おこめのお話～おにぎり君とゆかいななま～」
聖園学園短期大学学生による発表

- 食事会：ぜ～んぶお米deランチ
(全ての料理にお米が使われている食事会) 園児+園児保護者
・平成23年2月10日(木) 於)聖園学園短期大学附属幼稚園
・平成23年3月1日(火) 於)秋田キリスト教学園 秋田幼稚園



湯沢市をはじめ秋田県内の米製品製造事業者、秋田大学、聖園短大、JAこまち等が研究会を立ち上げ、秋田県の米及び米製品の価値を秋田県内の消費者に効果的に伝える方法を検討した。

その結果、秋田県の米食文化を含んだ食育を幼稚園児とその保護者に伝え、米と米製品の可能性について食事を通じて体験してもらう事が、地域資源である米産業の維持・発展に繋がるとの方針となった。

そこで、秋田市内の幼稚園を対象に「秋田におけるお米と食育」を開催し、幼稚園児の保護者には食育の講演、幼稚園児には学生によるお米の可能性についての演劇、また、米製品製造事業者等の協力を得て、園児と保護者向けに米を使った食事会を実施した。

イベントの結果、秋田県内の地域資源活用や農商工連携事業認定事業者のネットワークの構築が推進され、幼稚園児を対象としたイベントを実施したことにより、幼少時の食育の重要性を改めて認識した。

【今後予想される事業効果】

従来の米製品等の消費拡大等については、農業者及び農業関係団体が中心となり実施していたが、今回の事業を通じて、米製品を製造している企業が親子一緒に食育事業を実施することにより、新たな販路拡大や秋田における米食文化の価値の再認識、今後の新商品開発や販路拡大を実施する際のネットワークの構築が出来たことにより、企業としての新たな展開が期待できる。

今後の展開として、湯沢市だけでなく他市町村や県の協力を得て、継続して秋田県内全域の幼稚園を対象に実施することが重要と考える。同時に、秋田の米と米製品の可能性を大都市の消費者に理解頂くことが大きな消費拡大にも繋がる為、大都市圏の幼稚園における当該イベントを展開しつつ、協力企業者の米関係商品を合わせて秋田米商品群としてPRする取組みを実施することで、日本全体の食糧自給率の向上や米産業の維持・発展にも寄与できるものと考えている。